

品川支部

令和六年2月1日発行
〒141-0022
品川区東五反田1-8-5
Tel 3442-7075

2月

天理教品川支部（豊英分教会内） 発行責任者 栗原薫 編集 支部編集部

能登半島地震 各地で支援の輪

元旦に起きた能登半島の大規模地震で、教内の教会で三カ所の全壊を含む九十八教会が被災とのこと
で各地で災救隊の派遣と支援の輪が広がっています
当方からも五日には支援物資の要請に応じて手持ちの
防寒・防水のアルミポンチョ兼シートを100枚
マスクを500枚僅かながら供出致しました
支部内本荏大教会田中会長は教区の災救隊責任者として
いつでも出動できるよう待機の状態です
復興に向け教友だから出来る支援を協力して参ります

取り敢えず要請に応え、手元にあった下のものを供出



500枚
教友からの寄付による

アルミシートフード付き 防水 防風 防寒
保温 防災 収納ポーチ付き アウトドア サ
バイバル エマージェンシー シート ブラン
ケット 静音 防災グッズ 緊急 非常用 遮
熱シート 100枚

☆支部行事のお知らせ

・支部例会二月二十八日(水)

会場 鶴平分教会（詳細は二頁参照）

・幹事会二月九日(金)

都南分教会にて 六時から

・みんなでひのきしん

・百四十年祭三年千日の東京教区活動方針の、
「みんなでひのきしん」に多数の方のご参加の待
ちしております

大井在宅介護センター

今月は二月二十七日です

神名流し

二月一日です

☆教務支庁からのお知らせ

・能登半島地震へ教区の取り組み

・取り急ぎ東京教区「災害たすけあい募金」から
石川教区へ五百万円を送金させて頂きました

・東京教区災救隊は本部から出動要請ですぐに
出動できる準備を整えて待機です

・出動にはマイクロスコープ一台、装備などの車両四台が
必要となり、一回の出動で約百万円掛かります
その状況下、東京教区は皆さんの普段からの協
力で本部からの助成金なしで出動しております

・今回更には有りますが、一教会十枚の「災害
たすけあい募金」の袋を用意致しました
是非、各教会ご協力をお願い致します

・能登半島地震情報

・被災教会数は報告があった数は
九十八カ所が倒壊の被害

内、三カ所が全壊と言う事でした

・災救隊はいち早く、石川教区隊
福井隊、新潟隊が出動

十九日の時点では第四次隊が出動

・救援物資について

・必要とされている救援物資は石川
教区情報ネットに記載されておりま
す

・そこに記載されている物資以外は
現在送らないで頂きたいことです

・義援金

・天理教災害救援委員会 仲野委員
長「天理教災害救援ひのきしん隊基
金」へ教区を通して支援いたします

・その他の教区関連日程

・二月十四日十四時

・本理仁分教会 杉田拓也先生
「節にこもる親心 教祖に導かれて」

・二月二十三日九時から
教区青年会・女子青年会合同総会

・三月三日鼓笛バンドコンクール

「ひの煉瓦ホール」にて

・三月三日

天理大雅楽部定期演奏会東京公演

拠点教会	7日号	14日号	21日号	28日号
日本橋	直 送	手 配 り	直 送	手 配 り
本 荏	直 送	手 配 り	直 送	直 送
都 南	手 配 り	手 配 り	直 送	直 送
三ツ木	手 配 り	直 送	直 送	直 送
水豊田	手 配 り	手 配 り	直 送	直 送

時報手配り二月予定

新しい年を迎え、私の教会も午前中、上級の元旦祭を勤め終え、例年のように車で自教会へ車で戻る。

「おつとめ着」を着用したまま、ハンドルを握っている信号待ち、隣の車は「猿回し」の仕事の人間にでも見えただろう。

自教会の「元旦祭」も 大方の片づけが終わった頃、テレビから正月気分がすっ飛んでしまいうような、「緊急地震速報」その後「大津波警報」が目飛び込んできた。

翌日二日には、羽田国際空港での飛行機事故。

孫連れで福岡から戻る予定の娘家族を心配したが成田経由でその晩戻ってきて、安堵した次第である。

当たり前の日常がいかにも素晴らしいことは優に及ばず、時には信仰をしても「何故、どうして」と思ってしまうがちな人間である。



転ばぬ先の杖

そうこうして「松の内」も終わり、春の大祭の準備に取り掛かった九日、明日の準備も終わり、床についた。その未明、身体全体がガクガクと震え、体温計を脇に差してその数字を見ると、三十九度七分。立つこともままならない身体で、献饌だけでもとフラフラしながら形だけは整え、最寄りのクリニックへ駆け込んでみたが、医院の駐車場（屋外）の椅子で数人先の順番をまつた。やっとで診察を受けると「インフルエンザA型でコロナではありません」と伝えられた物の、この時期、薬がどこの薬局も少なく、フラフラになりながら数か所聞きながら、薬を探し廻った次第である。

教会に戻り、事の由を説明し、会長不在での祭典をする事となった。役員の代読で祭儀を執り行ってもらった。

二階の寝室からおつとめを聞きながら、自問自答した。その際、本棚の中から「心定め」のノートが眼に入った。

教祖の口伝のお言葉に「おだすけ頂くには、心定めが肝心やで。心定めんことは自由はない。」

定めた心は動かしてはならん、動くようでは定めたとは言えん。

この理よう思案してくれ。定めた心に自由はあるのや。その定めた心に神が働く。一時の定めでも守護頂ける。だがそれは神様のお慈悲やでお慈悲によって自由かなえさせてくださったのやから何時元に戻るやら知れん。定めた心変わらなかつたら、いついつまでも自由かなえさずで。一時の定めでもご守護頂けるからというて、いつもいつも同じような心で通っていたなら、頂けるご守護も頂けなくなってしまう。

人間の中でも同じようなことを繰り返してれば、いつかは離れてしまう。

神様かて一度は許す。二度はたすける、三度は許さんとお教えくだされてるのやから、よう思案しなけりゃいかんで。

人をたすけさせてもらうということは、恩返しになり、徳を積むことになる。

前生からの悪いんねんも切っけてくださるのやから。どれだけ結構にさせて頂けることかわからん。

精出してたすけさせてもらいなはれや」と、その行に眼がとまった。

親からのよふばくを預かりながら数十年勤めてきたものの、医者・薬でその時だけをクリアしてきた感否めない。

今年早々大変な事が起きていた最中、他人事ではならなくて床の中で涙を流したのである。

今一度、年祭へ向けての、親のお知らせと受け取り、平癒にむけて数日間を過ごしたのである。

めい／＼のみのうちよりもしやんして 心さだめて神にもたれよ

しやんして心さだめてついで すゑはたのもしみちがあるぞや

しんじつに心さだめてねがうなら ちうよちぎいにいまのまあにも

鶴平分教会長

平林典道

品川支部例会

令和六年 2月28日 (水) 11時開始

場所 鶴平分教会

(品川区西大井二丁目12の6)

内容 おつとめ よろづよ八首二下り
東京教区、支部連絡事項
当該教会 平林会長挨拶
昼食の用意あり

*各教会の方のほかどなたでも (白足袋ハッピー着用)

